

知事記者会見（平成23年1月4日）

●知事発表

なし

●幹事社質問

（１）新年の抱負について

●その他

（１）統一地方選について

（２）大館能代空港について

時間：13：00～13：33

場所：プレゼンテーションルーム

（幹事社）

あけましておめでとうございます。今年も一年よろしく申し上げます。
幹事社からの質問で、新年の抱負についてまず伺いたいと思います。

（知事）

あけましておめでとうございます。今年も一年よろしく願い申し上げます。
先程の職員への年頭のあいさつでもお話しました。私も足掛け3年目になります。21年は当選した年でしたので、様々な諸準備、通常一年ぐらいしてから新しい計画を作りますが、流れの早い時代ということで21年は「元気創造プラン」の土台となるプランニングの年でした。22年3月の議会で同意を得まして、22年度から（元気創造プラン）がスタートしたわけですが、様々な情勢変化に対応して、例えば農業の基金とか医療の基金という基礎になる部分を中心にやってきました。経済雇用対策については切れ目なくやっておりましてけれども、こういう中長期的な問題、あるいは新しい時代への対応等に関しては、今年が正念場になるのかなと思います。ただ、国政の状況も混沌としていますし、また、世界経済の状況も必ずしもいいものではない、さらにはアジアを巡る国際的な緊張関係もあり、秋田ともいえどもその情勢に影響を受けるわけです。

しかしながら、そういう影響を受けつつも主要課題について一定の前進をしなければならぬ年であり、また、それを成し遂げていけない限りは、様々な秋田の可能性を導き出すことができないという年です。そういう意味から今日は幾つか部局ごとに主要な課題を提示しまして、各職員の奮起を促しました。特に喫緊の県政の重要な課題である経済雇用対策については、県の対応だけではいかんともしい難い面は、世界経済の関係からもあります。小さな企業にあってもより積極的に新しい展開を模索しているところも多くなって

きていますので、そういうところに集中的にバックアップしまして、様々な可能性を引き出したいと思っています。

さらには、時代の変化に伴って産業形態も変わってきています。例えば企業誘致にしても、単にものを作る工場のみならず様々な産業形態がありますので、そういうものを幅広く踏まえながらやっていかなければならないということです。いわゆる一次産業、二次産業、三次産業という境目がほとんどなくなってしまうして、区分けができないビジネスが増えています。そういうものに対しても、アプローチしていかなければならないと思っています。

あともう一つ、農業問題についてはＴＰＰがどうなるのかは別にいたしましても、国においてもこの６月に農業対策について一定の骨格を出すということですが、我々としてはあくまでもきっちりとした農業対策というものがあって、初めて（ＴＰＰへの）参加の是非を判断できるものです。そういうことからして、ＴＰＰを否定するものではありませんけれども、基金という制度もできましたので農林漁業の再生のための様々な取り組みをやっていかなければならないと思っています。特に、米が主で、米以外のいわゆる畑作、野菜、果樹、畜産、林産物、これが従という考えはそろそろ捨てなければなりません。両方両立しながら、場合によっては米以外のものを主にするくらいの意気込みでやっていかないと、これから大変なことになるのかなと思います。そういう意味では、我々の意識も変えなければなりませんし、農業者の意識も変え、変わっていただかなければならないという意味で、あくまでも前向きに、攻撃的に捉えて、農林漁業対策をしていきたいと思っています。

それから、医療対策ですが、いよいよ厚生連の２つの病院の計画、大曲の仙北組合総合病院については、再開発のスケジュールに沿って計画が進みますので、これは再開発のスケジュールとルールにのっとってやっていくということになります。地元の大仙市もきっちとした形で対応していただいておりますので、これは計画どおりやるということです。もう一つの湖東総合病院については、医師確保対策も多方面で進めています。そういうものも踏まえて、今年は具体的な形を示しながら進めていかなければならないということです。さらにがん対策についても、国の制度も大分進展しております。そういうものを含めてやっていくということです。

あと、２月に開催される冬季国体を成功裡に収めたいと思っています。職員も今、議会対応、（予算）査定対応、国体対応と忙しいわけではありますが、全庁一丸となって取り組んでいくということだと思います。

少子化対策について、今年、支援センターが３カ所できますので、こういう点についてはある程度数字を追っていかないといけない、こちらの方は数字に一喜一憂しなければならないことだと思います。

自殺予防対策については、民間の方々、あるいは大学の先生方のご理解をいただき一体となって取り組んでいただいた結果、（年間の自殺者数が）４００名を割り込むということがほぼ確定になりましたが、これについては引き続き気を緩めることなく、一人でも少なくすることがこれからの当面の目標になるのではないかと思います。

以上、いろいろな面もありますけれども、昨年が段取り、あるいはステップという、ホップ・ステップ・ジャンプのステップのところまでいきましたので、これからはジャンプ

をしなければならないということです。ホップというのは上だけに跳びます。ジャンプというのは、高く跳びながら前へ進む、それがジャンプです。字で言うと飛行機の「飛」は上に飛ぶで、前に進んで跳ぶのは「跳（ちょう）」です。ということで、この昨年末に書いた段取り、あるいは一段上のステップに計画を乗せたということで、これから今度は勢いよく遠くへ高く跳び出すという年にしたいなと思っています。

（幹事社）

ありがとうございます。

幹事社から1つ質問があります。今年4月に統一地方選がありますけれども、県内で一番大きいのは県議選です。知事のスタンスとしてどういう形で支援するのか、今の段階で決まっていることがありましたらお願いします。

（知 事）

市長時代から選挙のたびにいろいろなスタンスがありました。基本的に国政選挙、あるいは市町村長の選挙は、心情的なものはあっても表立った応援はしてきませんでした。ただ、県議会の選挙は、これは県政を議論する選挙です。そういうことからしますと、私の県政運営に関する政策的な考え方に、100%の同調ではなく批判的なものもあるとしても、私の考えに近い方については、若干の応援の姿勢は示させていただくことがあり得ると思います。ただ、県議会議員の選挙はたくさんの方が出ますので、選挙カーに乗ったりなど、選挙告示の4月1日以降に直接的な動きは、選挙期間中は控えるべきだと思います。選挙期間の前後援会活動等については出席をさせていただく場合もあり得ます。

（幹事社）

1つだけ確認ですが、考えが近い方には若干の応援の姿勢ということなんですけれども、それは政党とかではなくて個人という考え方でしょうか。

（知 事）

はい、個人です。これは別に政党ではなく、様々な形で政党、所属会派のいかににかかわらず、私の政策にある一定の同調をしていただける方の後援会等について、依頼があればあいさつ程度はさせていただいてもいいのではないかと思います。

（幹事社）

ありがとうございます。

各社質問あればお願いします。

（記 者）

今、知事がお話した中で何点か伺います。

農業問題なんですけれども、米が主、それ以外の作物は従という考えは捨てるべきであるというお話、先程もされていまして、今もお話されました。知事として、具体的に今後、米以外の作物に対する支援策というものを強化するというお考えを具体的にお持ちな

のかどうかということが1点と、知事が先程のようにお話をされるに至った理由、背景みたいなものがあればそれも。

(知 事)

確かに、米というのは秋田の主要な作物で、「秋」の「田」と書くように秋田の農業と米とは切り離せない存在です。少なくとも人口減少は続いています。米への意気込みとか、願望は別にしても、米粉という一つのジャンルはありますけれども、これ以上の米の消費拡大、減反の率が逆に下がるということは想定できないのではないかと思います。

もう一つは、販売金額といいますか生産金額が、米と米以外で（その差が）非常に近くなっています。そういう形からすると、国民の中で主食のウェイトが非常に小さくなっていまして、いい米を作るということは大切ですが、米だけを農業の基盤、中心に据えていくということは秋田県の農業として、今後先細りになるのではないかと思います。秋田の気候風土に米は非常に適しているわけですが、これとて温暖化の関係で、北海道が米の大産地になりつつあるわけです。そういうことからすると、私は米以外の作物、特定の品目、あるいは重点作物について、全国的にも品質の評価も得られるようになっていまして、ブランド化も進んできています。昨年、秋の状況を見ると、すべてではありませんけれども転作を積極的にやって、米以外の作物を積極的につくっている方、苦労はしていますけれども、希望を持ってやっている方が非常に多く感じられました。輸出も含めて米産地というものも守りながらも、その他の作物を増やしていかない限り、後継者も育ちませんし、農業に対する魅力も生まれないのかなと思っています。

そういうことで、基金の使い道については現状維持ではなく、転作条件の向上を主眼にして、食品加工が中心になっていますので、そういう意味でお話をしました。秋田は米の国ですが、米も一ジャンルということにしないと農業の展開は望めないという感覚から言っています。

(記 者)

そうすると、基金の使途としてもそのあたりに少し力を入れた・・・。

(知 事)

そういう形のものが多くなるのではないかと思います。

(記 者)

わかりました。

それともう一点なんですけれども、統一地方選の関係で、知事選のときに県議有志という形で超党派で知事を支援するということがありましたけれども、基本的にはそういった方たちの支援ということも判断に入ってくるわけでしょうか。

(知 事)

少なくとも超党派でやっていただいた方は、私の考え・マニフェスト等を一定の理解の上でやっていただいたと感じていますので、先程お話ししたとおり、選挙期間になれば

動くべきではないですけれども、後援会活動に対して出席させていただく場合は当然あり得ます。

また、必ずしも、県議会と私の選挙とダイレクトにつながらなくても、その後いろいろなことで考えが一緒だったと、あるいはいろんな立場もありますので、そういうことも含めてあのとき（＝知事選）のという話ではありません。

（記 者）

今の県議選に関連する質問ですけれども、同じような趣旨になるんですが、知事が知事選で当選した際に、個人での判断だと知事はおっしゃっていましたが、政党ベースでは自民党と社民党、政党ではありませんが連合秋田も知事の支援をした経緯があったと思います。今後は知事が応援するしないの判断には、そうした過去に応援を受けたということも一つの判断材料になるということでしょうか。

（知 事）

今お話したとおり応援を受けたということは、それぞれの会派、その方々全部という話ではなかったと思います。私の考え方と一定の共通項があるということで応援を受けたと、理解していますので、少なくとも後援会活動等での出席、昔から知っている方の後援会の会合に呼ばれた場合、日程の都合がつけば出席をさせていただいている方もおります。そういうものを含めて後援会活動等については時間が許せば出席させていただくということも十分あると思っています。

また、お呼びがあれば、そういう方についても、ある程度これはこれまでの経緯もありますので、出席させていただいても自然なのではないかなと思います。

（記 者）

その過去の選挙というのも一つの判断材料になり得るという見解でよろしいですね。

（知 事）

国政選挙と市町村長選挙は、選ぶ次元が違います。県知事としてあまり立ち入るとするのはおかしいと思います。県政の問題ですので、理解をいただける方にはある程度仲間意識ということもありますので、お呼びがあれば行く場合もあるということです。

（記 者）

わかりました。要するに、過去に応援をいただいたというものも一つの判断材料になるという考えで間違いはないかということです。

（知 事）

はい、そのとおりです。

（記 者）

それと、一方で民主党が今回、地方勢力拡大のために年末に新人をたくさん擁立してき

ています。一応伺いますが、知事が民主党候補を支援すると、応援するというような選択肢はございますでしょうか。

(知 事)

これは、個人の問題だと思います。現在、民主党籍のある議員の方は、重要な議案には賛成をいただいています。そういうことで、別に差別をしているわけではございません。そういう方の中で、党として私の考え方に100%反対だというのは別ですが、もしそういうことでお呼びがあれば、私の考えにある程度共通項が一部でもあるということでしょうから、出席するということもあり得ます。

(記 者)

大館能代空港のことでお伺いします。大館能代空港の伊丹空港便が廃止ということになりますけれども、それを何とか回避しようと利用促進策をこれまで打ってこられましたけれども、廃止に至ったということの受け止めをお願いします。

(知 事)

実は様々な取り組みというものがあっても（伊丹空港便の）廃止は廃止でした。覆ることはなかったようです。ただ、今、航空会社は大型機、中型機、小型機の機材の配分を大きく変更をしています。人数が少ないところには中型機、大型機は不採算ですので、小型機を多く持つと、近距離中型機というものの技術開発も含めて、そういう形になっています。国際線もジャンボ機よりは中型機、今後、全体的な機材繰りと採算性から、小型ジェットという話もありました。東京便は何としても残したいと思っていますし、他県との競争でもあります。大館能代空港の存続のためには県としては力を尽くしていかなければならないということですので、この後につなげていくものだと思います。

(記 者)

今お話がありましたけれども、当面、東京便のみということになります。その東京便に限って新たに何か支援策ということを何かお考えになっているかどうか。

(知 事)

今、地元ともいろいろと話をしています。新幹線の延伸の関連、内陸線との関連とかがあります。今、建設交通部でやっていますけれども、まだ、具体的なものには至っていないという現状です。予算策定までには詰めていくということになっています。

(記 者)

農業問題でもう少し、米が主で、それ以外が従という考え方を捨てろということをおっしゃいましたが、例えば隣県の青森とか山形はリンゴとかサクランボとかに力を入れて、全国的に高いシェアを取っていると。秋田は残念ながらそこまでいくような作物はちょっとないわけですが、そういうことも含めて難しいことかと思えますけれども、米が主でない未来の秋田の展望というのは知事、どのようにお考えでしょうか。

(知 事)

サクランボであってもリンゴであっても量的に、全体のその消費量、あるいは輸出可能量というのはありますので、これを大幅に増やして、同じ舞台で競ってもなかなか難しいわけです。ただ、例えば数量は落ちてはかなり品質で勝負できるもの、あるいは出荷時期のズレで勝負できるもの、そういうことからしますと、逆に言うと青森とか山形というのは、戦前からの蓄積の上で成り立っていますけれども、転作という形になれば、品目はこちらがたくさん持っているんです。そういう意味からすると、大きなものということにはなりませんけれども、一定の種類を確保しながら、その種類ごとにそのジャンルで高品質なもの、あるいは出荷時期の調整ができるもので勝負していくというのが中心になると思います。

ですから、かなり多様性があるのかなと。秋田の農村も平野部から、かなり中山間地まで、あるいは鹿角のような冷涼なところから由利のように割と温暖的なところもあって、かなり違いがありますので、それだけバリエーションも多く持てるわけです。そういうことで、これが秋田の中心になるという、何十%を占めるというものが、青森のリンゴというようなものは無理ですけれども、それぞれのジャンルで一定のウエイトというかシェアを持てれば、トータルとしての農業県というイメージにもつながると思います。ただ、そのためにはブランド化が必要なんです。少量でいいものを出すというにはブランド化が必要なものですので、それは大変難しい方法ではありますが、選択としては一番ベストではないのかなと思っています。

(記 者)

先程の年頭のあいさつの中でも触れていたんですが、2つの医療と農業の基金が非常に大きな期待を集めていて、その具体的な活用方法を考えていく、今年やっていかなければいけないというお話があったんですが、特にその医療の分野だと多方面に今、政策を検討しているというお話がありました。その基金を使った新年度のスケジュールですとか規模、要するに来年度どれくらいの規模でスケジュールで、こういった基金を活用されているのか、現段階でお話できることでお伺いできればと思います。

(知 事)

農業関係は基金のスパンが大体5年という中で、当面まず3年を重点においています。医療の場合は10年としていますので、来年度は、大きなものは仙北の組合病院、あるいは湖東病院の建設費関係です。発注時期にもよりますけれども、23年は調査・設計が中心だと思いますので、金額的には大きくないのではないかと思います。

ただ、高度医療の関係については、今、病院それぞれで機器整備の計画をたてています。それにあわせた対応となりますので、全体規模というのはまだまとまっていないという形です。今月下旬までには全体がまとまってくるということで、まだ現場サイドで、いろんな病院からの聞き取り等の最中ではないかと思います。

(記 者)

今後その補正とかで来年度、順次事業を開始していくということもあり得るんでしょうか。

(知 事)

今年度の2月補正はないのかなと思います。基金の方は2月補正で、できれば医療基金は100%は盛りたいとは思っています。財源手当はどうなるのか・・・いずれにしてもまだ基金は全額積んでませんので、これを早期に積むことによって、全体の事業量を担保できるわけです。

(幹事社)

よろしいでしょうか。記者会見の方を終わらせてもらいます。ありがとうございます。